

地域を愛し、自立と共生ができ、未来を創る子ども

直東学園ニュース

直東学園版

平成30年度 第7号
平成30年12月15日発行
＜発行・編集＞
直東学園 事務局
〒942-0041
新潟県上越市安江 282-1
(上越市立直江津東中学校内)
TEL : 025-543-2729
FAX : 025-543-4150
E-mail : higashi-cs@jorne.or.jp

平成 30 年度

直江津東中学校区の小・中学校冬休みのきまり

直江津東中学校区の小・中学校で共通のきまりです。子どもたちが楽しく有意義な冬休みを過ごすことができますよう、家庭・地域で子どもたちを見守っていきましょう。

1 安全面

- ゲームセンター、ゲームコーナー、カラオケボックスなど、子どもだけでは行きません。
(行く時は責任もてる大人と一緒に行動します。)
- 降雪時、凍結時は自転車に乗りません。
冬期間は雪が降っていなくとも、路面が凍結していることがあるため、とても危険です。
- 動画、ゲーム、SNS 等の使用のモラルやマナーを守ります。
 - ① 保護者と一緒に使い方の約束をしてから、使います。
 - ② 自分も他人も傷つけない使い方をします。
 - ③ 小学生、中学生共に、1日の使用時間は2時間以内にします。
 - ④ 有害な情報につなぎません。
 - ⑤ ゲームアプリへの課金は望ましくありません。
 - ⑥ 通信機能の付いたゲーム機でのトラブルが発生しないよう気を付けます。
 - ⑦ SNS (フェイスブック、ツイッター、ラインなど) に関わる事件に十分気を付けます。

2 外出

- 「だれと」「どこへ」「何をしに」「いつ帰る」を家の人に必ず伝えます。
- 朝、午前9時までは遊びに出かけません。
- 帰宅の時刻を守ります。ただし、家庭・地域の行事などがある場合は除きます。
 - 【小学生】 冬休み中は、夕方4時30分までに帰宅します。
 - 【中学生】 夜7時以降の子ども同士での外出は禁止です。

3 外泊

- 子ども(児童、生徒)だけで、友人宅への外泊はしません。
心配な行動が現れてくることが多いからです。また、本人同士の思いだけでできることではなく、相手の家庭の都合を配慮しなければなりません。

11月30日(金)

「ほくら人権の日」 ～テーマ「幸せに生きる」～



11月30日(金)は、「ほくら人権の日」でした。保護者の方、地域の方、直江津東中学校区の先生方、学校運営協議会委員の方等80人近くの方々からお出でいただき、人権学習の公開授業と講演会を行いました。講師はデフマジシャンのミスターかわづ様、演題は「サイレントマジックショー ～障がいをはりこえ、夢と感動を与える～」です。子どもたちに見た「タバコが消えるマジック」に魅了され、プロのマジシャンになるという夢を叶えたミスターかわづさん。

テーブルに横たわった人が浮いてしまったり、全身を縛られていたアシスタントの人が、ほんのわずかの間に、校長先生が着ていた上着を着ていたり、目を見張るようなマジックに、子どもも大人も大興奮でした。

参加した方から「かわづさんは聴覚障がいをはりこえて、人一倍努力して、今は世の中の人に感動と幸せをくださる素晴らしい人だと思いました」という感想も寄せられました。素敵な出会いから多くのことを学び、地域みんなで幸せをかみしめた一日となりました。



直東学園に今年も視察訪問がありました。



11月8日(木)富山市立大沢野中学校から、校長先生とコミュニティースクール検討委員会の委員長さんの2名が直江津東中学校を訪れました。目的はコミュニティースクール導入に当たり事務局やコーディネーターの役割の視察でした。

普段の事務局会議の様子を見ていただき、その後交流会を持ちました。事務局のメンバーと率直な意見を交わし合い、和やかな雰囲気での交流が進められました。事務局やコーディネーターの重要性を分かっていただけでした。

11月9日(金)浜松市教育委員会が中心となり、コミュニティースクール導入に向けた管内の小・中学校の校長先生や教頭先生6名が春日新田小学校を訪れました。

はじめに、春日新田小学校の授業を参観していただき、その後多目的室において、亀山校長先生が「学校から見た直東学園」について、高橋理事長が「地域から見た直東学園」について説明をしました。

最後に、訪問された先生方からいろいろな角度からの質問を受け、説明する中で改めて直東学園が他の地域にはない組織であることを痛感しました。



地域青少年まちづくりワークショップの 発表会に参加しました。

10月13日(土)にリージョンプラザ上越で行われた、地域青少年まちづくりワークショップの発表会にて、中学生の代表6名が、次の活動内容を堂々と発表しました。

【直江津東地域青少年育成会議では、これまで通り中学生まちづくりワークショップを継続して取り組むこととし、生徒会代表との話し合いを通して、今年度も「学校と地域との交流をさらに深めていくにはどうすればよいか」をテーマにして活動を行いました。

昨年度から継続している「あいさつ運動」「有田わくわくフェスタ」への参加に加えて今年度は新たに、夏休みの「地域のラジオ体操」への参加、及び体育祭での「地域交流種目」として地域の皆様と一緒に楽しむ玉入れに取り組みました。】



秋のあいさつ運動ありがとうございました。

1 立哨中に会った大人の方とあいさつを交わしましたか

	町内会	PTA
ア 交わした	27	3
イ 交わしたり交わさなかったりした	15	0
ウ 交わさなかった	0	0
無回答	1	0

2 立哨中に児童生徒に自分の方からあいさつをしましたか

	町内会	PTA
ア 自分から先にした	22	3
イ 自分からしたり相手が先にした	20	0
ウ 相手が先にした	0	0
無回答	1	0

3 期間中家庭内であいさつをしましたか

	町内会	PTA
ア 自分から先にした	12	1
イ 自分からしたり相手が先にした	23	2
ウ 相手が先にした	0	0
無回答	8	0

9月の秋のあいさつ運動のアンケートの結果がまとまりました。町内会など計31団体から回答があり、参加した大人の本数は、期間中延べ627名、一斉あいさつ運動の21日は延べ177名でした。左記の質問には46名の方から回答をいただきました。

アンケートの記述の中から(抜粋)

- コミュニケーションを図る意味で良いと思う。今後も継続してほしい。
- 「誰？」みたいな感じだったが、こちらがあいさつをしたら子どもたちもあいさつをしてくれた。
- 登校時、中学生が校門前で整列してあいさつを行っていたこともあり、負けずに大きな声であいさつを行っていた。それが影響したのか特に低学年が元気であいさつを継続している。
- あいさつをする子が少なく、しても元気がない。ちょっとガッカリです。
- 元気よく登校しているが、積極的にあいさつする児童は少なかった。
- のぼり旗が立っているのが少ないような気がした。

学校、家庭、地域に呼びかけて進めているあいさつ運動です。

大人が子どもたちの手本となる取組にしていきたいものです。

＜直江津東地域青少年育成会議 地域部＞

立志式 in 直江津東中～2年生が夢を語りました！～

10月18日（木）に直江津東地域青少年育成会議が主催する立志式が行われました。式の前半は、中学校に入学した時からの1年半を振り返るスライドショーを見ました。映像を通して自分たちの成長を確認しました。

その後、小グループに分かれて、自分の“夢”について語り合いました。一人一人“夢”を語った後に、友人からの感想やアドバイスをもらいました。

時折、笑顔や拍手が出る場面もあり、とても有意義で

心温まる時間となりました。生徒の感想の中には、「自分もグループのみんなも、自分の夢・決意をしっかりとっていて、すごいと思いました。他の人の決意も参考になり、これからの生活に生

かしいきたいです」「私と同じ夢や決意をもった人がいて、お互いに頑張ろうという気持ちになりました」など、とても前向きな気持ちになった生徒が多かったようです。

式の最後には、和やかな雰囲気の中、町内会長の皆様から、一人一人手渡して、立志のバッジをいただきました。生徒もうれしそうにバッジを制服に付けていました。立志のバッジを付けた生徒の様子を見ると、何かひとまわり大人になった感じがします。立志式に参加いただいた町内会長、民生委員、直東学園の委員、保護者の皆様ありがとうございました。



生徒代表立志の決意発表



立志バッジを受ける生徒の様子



国際教師教育学会より感謝状が贈られました。

今年の5月14日（月）～18日（金）の間に、上越教育大学を中心に、国際教師教育学会が開催されました。その一環として学校訪問が行われ、直東学園の有田小学校、春日新田小学校、直江津東中学校を国内外から70名近くの学会関係者が訪れました。両小学校では日本の給食も味わっていただきました。

その時のお礼を兼ねて、実行委員長の大阪市立大学辻野けんま准教授が11月15日（木）16日（金）に、有田小学校、春日新田小学校、直江津東中学校、直東学園に感謝状を持参されました。

これまでの学会の学校訪問と違い、公立の平均的な学校の普段の様子を視察できたことが、各国の研究者にとっても喜ばれたとのコメントをいただきました。給食もとても好評だったそうです。

